

[成果情報名] タバココナジラミの薬剤に対する感受性

[要約] タバココナジラミ成幼虫に対する有効薬剤は少ないが、アルバリン顆粒水溶剤、ベストガード水溶剤は効果が高い。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・環境部・作物病害虫科・村上芳照

[分類] 技術・参考

---

[課題の要請元]

部門別代表者、J A

[背景・ねらい]

タバココナジラミはトマトの黄化葉巻病を媒介し、近年最も重要な害虫となっているが有効薬剤が少ない。また、バイオタイプにより薬剤感受性が異なりバイオタイプはQは薬剤抵抗性が発達している。そこで、現地で発生しているタバココナジラミのバイオタイプおよび薬剤感受性を調査する。

[成果の内容・特徴]

- 1．採取した系統のバイオタイプはすべて薬剤抵抗性の高いバイオタイプQであった。
- 2．タバココナジラミ幼虫に対し、コロマイト乳剤、ディアナ SC、アニキ乳剤、ベストガード水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤は死虫率が高かった。
- 3．タバココナジラミ成虫に対しては、ディアナ SC、アニキ乳剤、ベストガード水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤、コルト顆粒水和剤、ベネビア OD が死虫率が高かった。

[成果の活用上の留意点]

- 1．本試験では、一部地域の作物から無作為に採集した系統に対する検定の結果で、全ての系統が本結果の感受性を示しているものではない。
- 2．タバココナジラミに対して効果の高いアルバリン顆粒水溶剤、ベストガード水溶剤の2剤およびコロマイト乳剤、アニキ乳剤、ディアナ SC の3剤はそれぞれ同一系統の薬剤であるため連用は避ける。（アニキ乳剤とディアナ SC の IRAC コードは異なるが系統は同じである。）

[期待される効果]

- 1．有効薬剤を効果的に利用することで安定生産が図られる。また、本情報はローテーション散布の資料として活用できる。

[具体的データ]

表1 タバココナジラミのバイオタイプ

系統	供試虫数	バイオタイプ	
		Q	B
中央市A	10	10	0
中央市B	10	10	0



図1 タバココナジラミの幼虫(左)、成虫(右)

表2 タバココナジラミ成虫・幼虫に対する薬剤の効果(補正死虫率)

薬剤名	IRAC コード	希釈倍数	幼虫		評価	成虫		評価
			中央市A	中央市B		中央市A	中央市B	
コロマイト乳剤	6	1500	99	100		44	67	
ディアナSC	5	2500	93	98		93	70	
アニキ乳剤	6	1000	87	96		85	82	
ベストガード水溶剤	4A	1000	91	87		95	100	
アルパリン顆粒水溶剤	4A	2000	93	83		100	100	
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2000	93	73		100	87	
ウララD F	9	2000	86	74		48	96	
コルト顆粒水和剤	UN	4000	76	68		93	100	
ベネビアOD	28	2000	72	72		85	96	
アフーム乳剤	6	2000	49	92		74	100	
マッチ乳剤	15	2000	79	77		-	-	-
ダントツ水溶剤	4A	2000	89	68		58	39	
アクタラ顆粒水溶剤	4A	2000	74	70		0	4	
アドマイヤーフロアブル	4A	4000	78	50		69	39	
バリアード顆粒水和剤	4A	2000	67	54		77	44	
アブロード水和剤	16	1000	62	58		-	-	-
アグリメック*	6	1000	72	49		96	89	

\*アグリメックはトマトに登録なし。ナス、メロンでタバココナジラミに登録有り。

\*\*総合評価 : 死虫率の平均が81%以上、 : 死虫率の平均が71~80%  
: 死虫率の平均が70%以下

\*\*\*IRACコード 殺虫剤の有効成分がどの部分に働きかけて防除効果を発揮するのか分類したもの。

[その他]

研究課題名: 作物・野菜・花き病害虫の防除技術の改善  
3. 薬剤に対する耐性及び感受性低下害虫のリスク管理

予算区分: 県単

研究期間: 2014年~

研究担当者: 村上芳照、石田久美子